第　６８号
令和2年12月21日
編集責任者　田邊　朋之

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町2番地
TEL　0152-25-3792
FAX　0152-25-3793

ビート状況調査を終えて

去る10月26日、ホクレン製糖工場にてビートの受け入れ状況などを視察してまいりました。
本年の収穫予定量は947,900ｔ、糖分は17.3%、清里農協に於いては反収7.31tを予定しているとの話でしたが、収穫をほぼ終えている皆様の結果はいかがでしたでしようか？
圃場によって、かなりの格差があったと思われますが、なんとか予定収穫量に届いて欲しいと願うところです。
受け入れは順調に進んでいるようで、今後も天候がおとなしく推移することを願います。
質疑応答では、主に運搬時の事柄についてのやり取りがあり、ショベルオペレーターの技量向上、収穫物に対する扱い方の良い点・悪い点などを話し合いました。また、新品種についても尋ねましたが、収量・糖分・耐病性等トータルで鑑みると、今のところ現行品種を超えるものは出てきていないとの回答でした。
本年は新ウイルスに悩まされ続けた一年でしたが、来年は通常の生活が送れ、豊穣の一年を過ごせる事を願い、ご報告とさせていただきます。

1集団　上本　潤

ビート状況調査を終えて

原料ビートの受け渡し状況の調査のため、中斜里製糖工場へ１９名で参りました。はじめに斜里南土場パイラーと工場定置パイラーを案内していただきました。
パイラーはダンプで運ばれてきたビートを受け入れて、遊離土砂を分離し、付着した泥や、葉をきちんと切り取れているかのタッピング、根腐れ病などによる腐敗を、人の目で判断して歩引する査定を行い、糖度を測るためのサンプルを採取して、小ぶりなピラミッドか、平均的なサイズの古墳くらいの大きさに堆積する機械装置です。オペレーターと、立会人を含む数人の査定チームと、サンプル採取係、ビートの山の上を歩きながらリモコンで大きなベルトコンベアーを操作して堆積する係で作業を進めていました。大きな機械の足元にも山の外枠を直管パイプなどで形成する係の人や、堆積したのちにシートを設置する係の人がいます。査定の状況を理解するために生産者の違う数台のビートの査定の様子、結果を見学しました。雨が少ないためか付着土砂は２%程度、タッピングはビートが小さかったり不揃いで茎葉も混入してくるもので１３%、見事な大きさで形の揃ったもので１１%でした。
次に糖分分析センターを見学しました。分析センターには各パイラーから到着するサンプルを受け入れてラインに乗せるエリアと、サンプルの前処理を行うラインと、糖分を測定するラボの3つの部署に分けられていました。前処理のラインでは、ビートを洗浄し、製糖工場の実際のラインでも取り除かれるタッピング部分とテールを人の手で除去し、回転する刃でピューレ状にすりおろす装置で処理して0．５リットルほどのビニール袋に詰めて、中身を揉んで混ぜる機械にかけていました。ラボでは前処理されたサンプルは、コンベアーに乗ったカップの上に乗せた漏斗に注入し、ろ紙でドリップしたものをコンベアーのマグネチックスターラーで撹拌して分析装置まで運ばれていきます。分析結果は即座にデータ化され、ほんの数日で私たちの手元に届く、受け入れ明細表が作成されます。
最後に工場の会議室において、受け渡し状況に関する意見交換を行いました。ホクレンでは今年の清里町の収量見込みを7.3t/10aとして輸送計画を調整したそうです。そのため、集荷時期が早まったことで最初の数日は少ない台数で多くの農家からの集荷を実施せざるをえず、そのため、慌ただしいようすだったとの声が上がりました。また、オペレーターの世代交代のため、ショベルの積み込みの際に未熟な点があるとの指摘もありました。ホクレンからは、後期庭先原料のシート被覆や、異物混入防止、ストック

また、始まるまでの途方もない準備作業と、季節や天候に追いかけれて進まなければならい点は農業と共通していると思います。ちょっとした油断や焦りが、事故につながるのでお互いに気をつけていかなければならないと思いました。農家で言えば資材の品質（たとえばポット紙筒など）に問題があれば、深刻なトラブルの原因になることがあることを想像すれば、堆積関係の繰り返しの指導も、納得できるとであると思います。

1集団　澤田　篤史

議会傍聴

12月11日、清里町議会の第9回定例会を執行委員で傍聴いたしました。午後から傍聴をしたため、午前中に行われた一般質問を聞くことはできませんでした。
新型コロナウイルス感染症対策などの補正予算が審議されておりました。今年度で8回目の補正予算となり、コロナの影響が清里町の経済に大きく影響があることがわかります。
農民連盟から、コロナ禍による地域経済対策を求める意見書案を提出いたしました。内容は、感染症などにより世界の食糧需給に不測の事態が発生しても、国民へ食料を安定的に供給できるよう国内農業生産を抜本的に増大させること。コロナによる需要減に対応できるよう対策予算を十分確保すること。来年度以降へ影響が長期化しても安心して営農できるよう万全の対策を図ること。の3項目です。
満場一致で原案通り可決され、清里町議会の意見書として、総理大臣・財務大臣・農水大臣あてに提出されます。

事務局長　倉内　雅史





編集後記

年末となりました。今年はみなさんにとってどんな1年だったでしょうか。今、私は今年3月に亡くなった志村けんさんの本を読んでいるのですが、その中で印象的だったことは志村さんの年齢の捉え方でした。寿命を80歳として24時間で割ると3になります。自分の年齢39÷3＝13　で人生を24時間で考えると13時です。昼休みが終わってこれからもうひと頑張りというところでしょうか。そう考えると今自分がどの立ち位置にいて何をすべきか目安になるよね、というものです。　100歳の方は24時間をまわって午前10時です。次の日を生きてるんですからすごいことですよね。
少しでも長生きしたいのでこの冬は体力づくりと時間の有効活用を考えながら過ごしたいと思っています。

田邊